





新六歌仙

後京極権政右大臣

わをよりの志を花をまればまふ  
あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと

我々のむ七の社にゆふさき  
うやうやむむ川乃乃ふさか  
あまのこころをのころのつらゆと

あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと

あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと

あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと

あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと

あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと

あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと  
あまのこころをのころのつらゆと





○紀州和泉浦五ヶ所  
 大正神  
 天皇代の帝の所祀  
 聖神之為時帝遷河のときあり  
 紀州和泉浦五ヶ所  
 天皇代の帝の所祀  
 聖神之為時帝遷河のときあり  
 紀州和泉浦五ヶ所  
 天皇代の帝の所祀  
 聖神之為時帝遷河のときあり



天智天皇

秋の田刈穂のたのめ

田をたぬれば

海平あはれ

天智天皇



<p>III</p> <p>美世</p> 	<p>III</p> <p>かしのきりぎりす</p> 	<p>III</p> <p>身そがくぐり</p> 
--	---	--

わが家の  
 尾の  
 尾の  
 尾の

桐帯人磨

つきのりとのり



あまのり

あまのり




あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

<p>III</p> <p>あまのり</p> 	<p>III</p> <p>あまのり</p> 	<p>III</p> <p>あまのり</p> 
--	--	--

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

あまのり

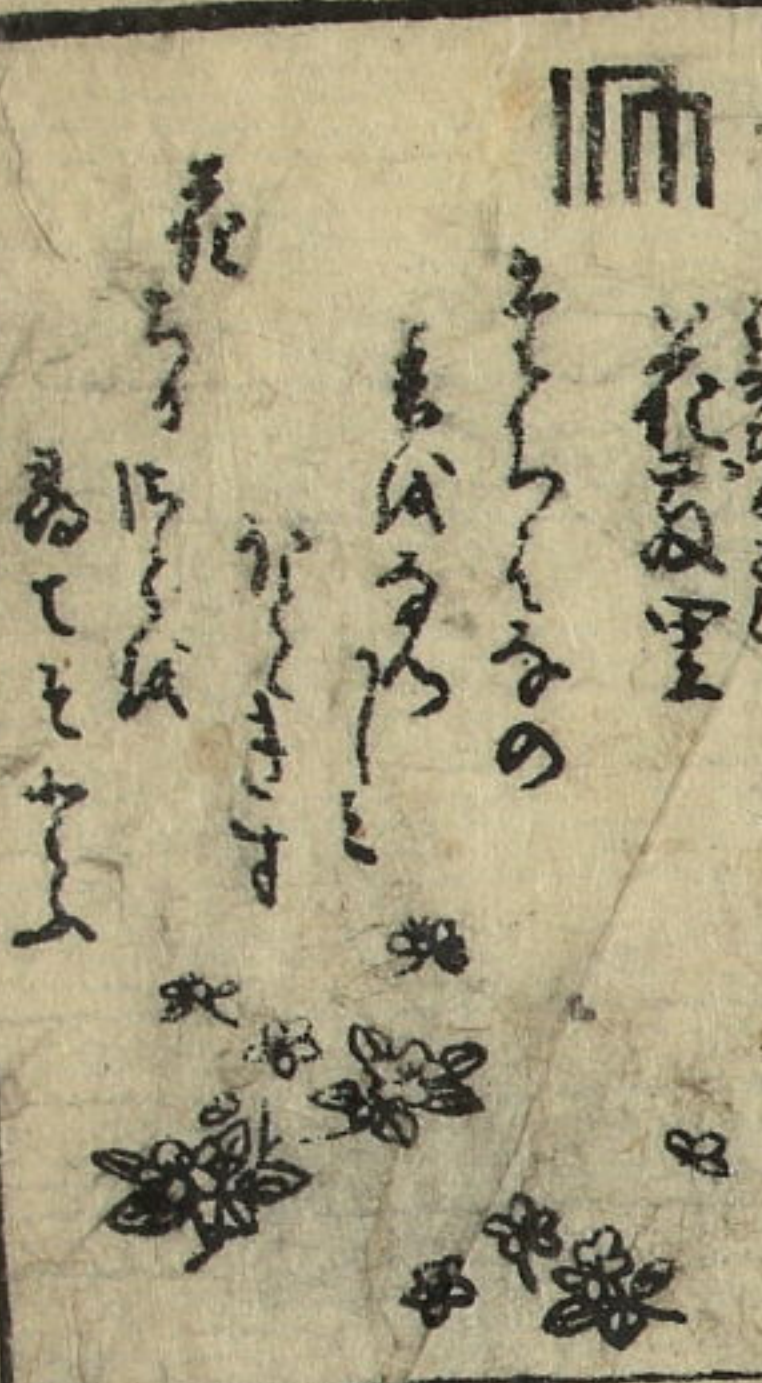
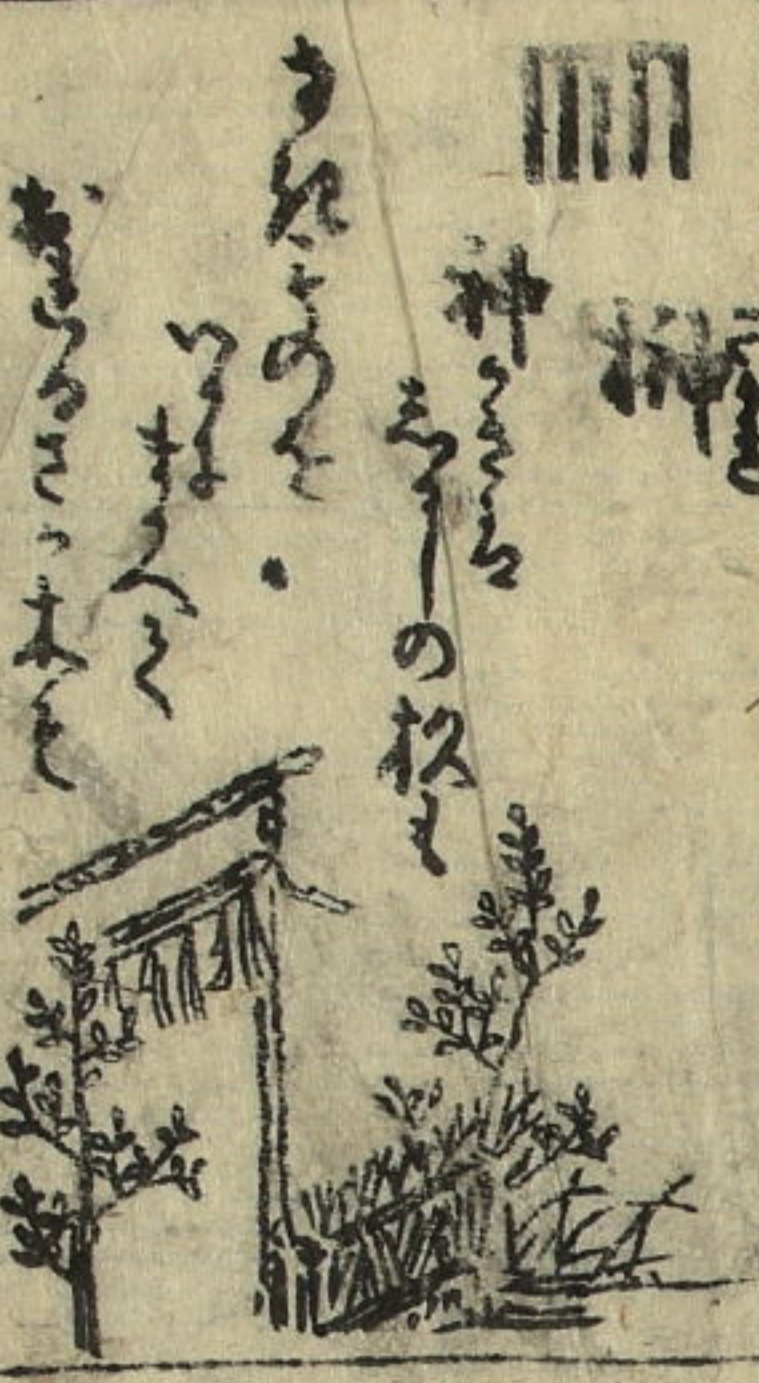

あまのり

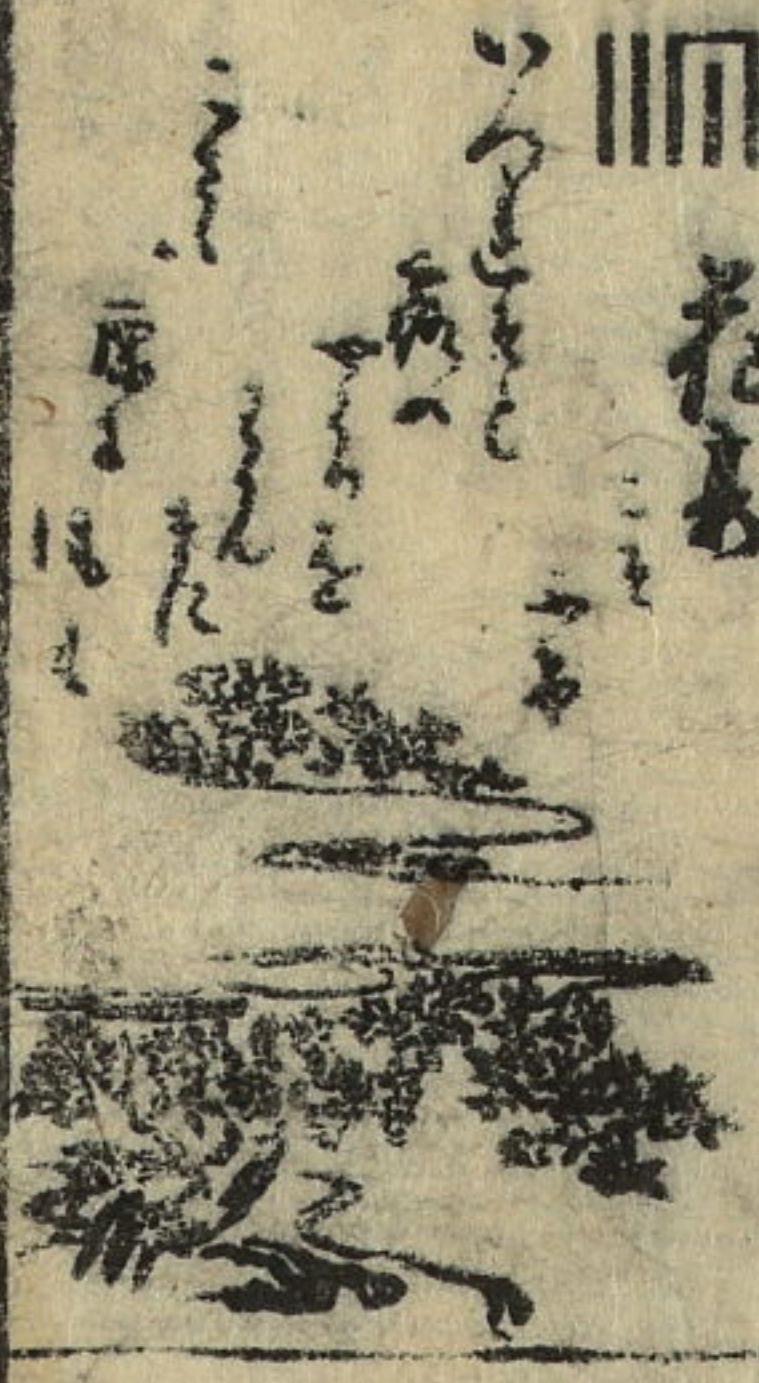


あまのり

あまのり





 <p>花 あはれ あてし あまの あまの あまの あまの あまの あまの</p>	 <p>花 あまの あまの あまの あまの あまの あまの あまの</p>	 <p>花 あまの あまの あまの あまの あまの あまの あまの</p>
--	---	--

 <p>花 あまの あまの あまの あまの あまの あまの あまの</p>	 <p>花 あまの あまの あまの あまの あまの あまの あまの</p>	 <p>花 あまの あまの あまの あまの あまの あまの あまの</p>
--	--	--

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



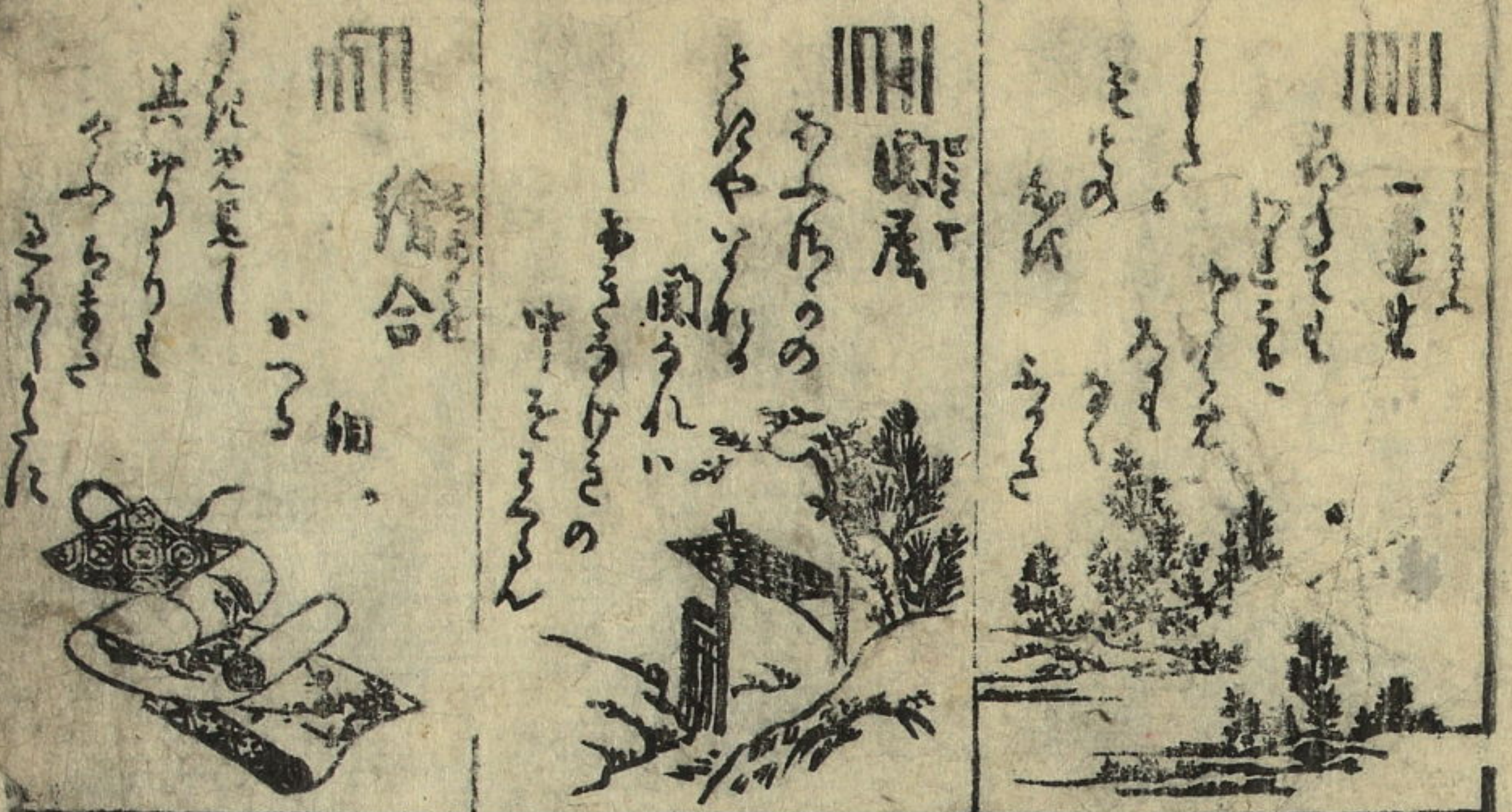
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの

あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの



あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの  
あまの





其の...  
合

...  
合

...  
合



...  
合

...  
合

...  
合



天の原  
...  
...



疾と...  
霜の...  
...



松風

身をくく  
ひりく  
まは



朝霞

朝霞  
のり  
いら



朝霞

朝霞  
のり  
いら



我いふ

我いふ

我いふ

我いふ

我いふ

我いふ

我いふ



し女

し女  
のり  
いら



玉尊

玉尊  
のり  
いら



玉尊

玉尊  
のり  
いら



小野

小野

小野

小野

小野

小野







人  
 海  
 原  
 田  
 十  
 春  
 議  
 堂




人  
 海  
 原  
 田  
 十  
 春  
 議  
 堂



<p>三三          我          夕          月          入</p>	<p>三三          野          夕          月          入</p>	<p>三三          若          業          上</p>
---	---	--

陽成院  
 院  
 根  
 の  
 業  
 夕  
 月  
 入



<p>三三          梅          枝</p>	<p>三三          若          業          上</p>	<p>三三          夕          月          入</p>
---	--	--

僧心廻  
 天  
 津  
 院  
 の  
 夕  
 月  
 入





桐木

いまだに  
まはりの  
やまの  
まはりの

撲笛

まはりの  
まはりの  
まはりの

鈴虫

まはりの  
まはりの  
まはりの

河原たぐ

今らわたり

まのよら

雅

礼

我



光

君

妻

お

美

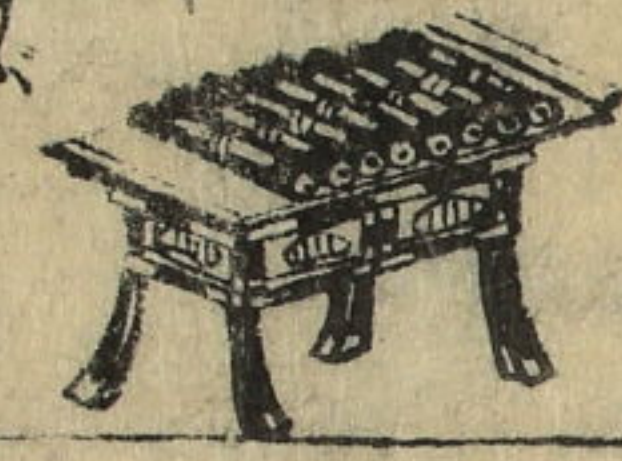


大  
切



御法

お  
の  
ま  
は  
り



夕

ま  
は  
り





白文

おのろふらんらん  
まはらばらばら  
うららかに  
あはれお身と

ね梅

おのろふらんらん  
まはらばらばら  
うららかに  
あはれお身と

竹河

おのろふらんらん  
まはらばらばら  
うららかに  
あはれお身と

推

おのろふらんらん  
まはらばらばら  
うららかに  
あはれお身と

推

おのろふらんらん  
まはらばらばら  
うららかに  
あはれお身と

推

おのろふらんらん  
まはらばらばら  
うららかに  
あはれお身と

松原

今

今

今

今

今

今

今

今

今

今

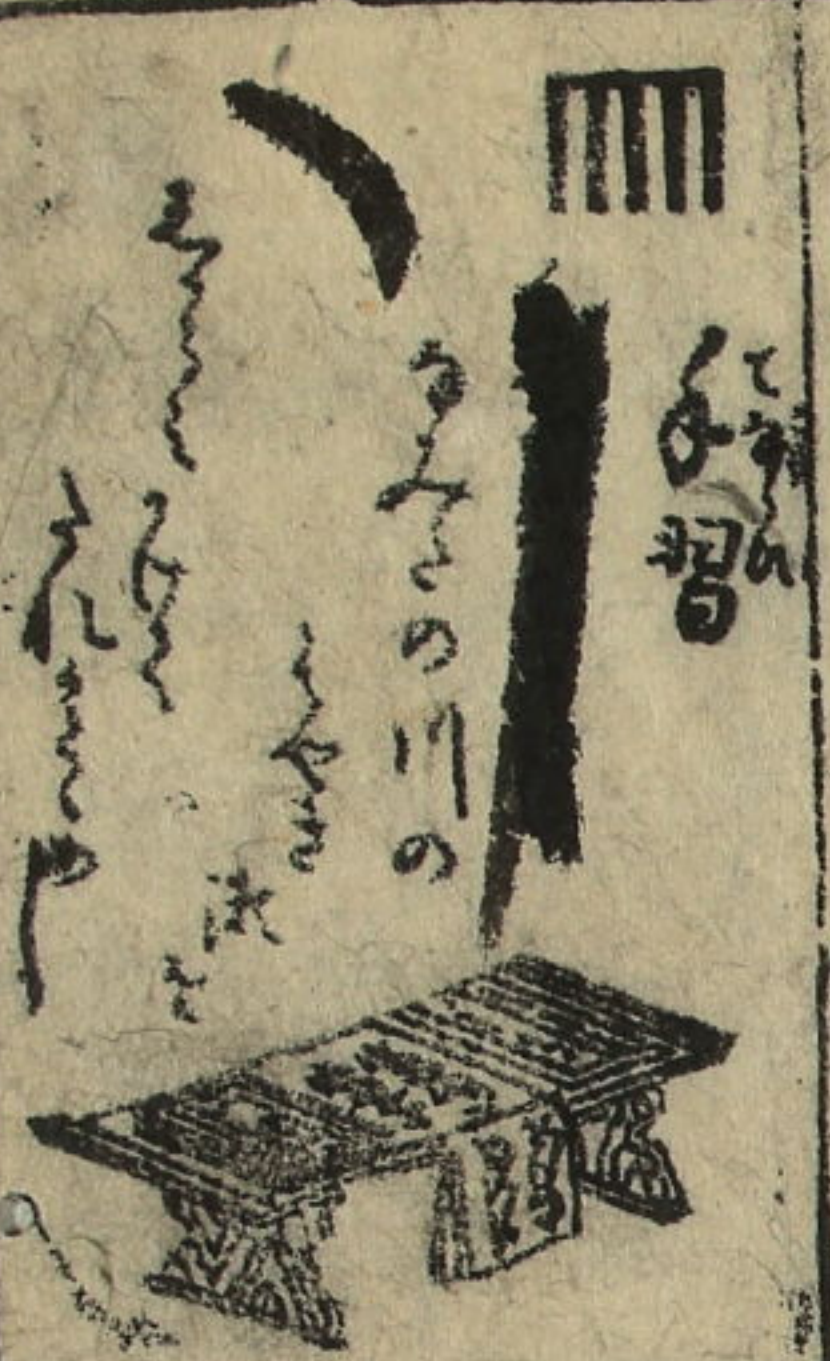


今

今



四



 <p>ての習 ての習</p>	 <p>の の の</p>	 <p>の の の</p>
--	---	--

 <p>東 東 東</p>	 <p>の の の</p>	 <p>の の の</p>
--	--	--

行  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の



住  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の  
の









しんぎの六十巻にいひし事  
是をいふ所は多し一つ下の事  
同しといふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき

吹く木根の  
草木  
あや  
久月  
あけ  
いさん



○昔の国々

の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき  
の事といふ所は多しはさき

あや  
あけ  
いさん  
あや  
あけ  
いさん









無香の方

河川 既香ふよきなり一五  
丁子 今更香一五 白くん  
草花 今更香一五 白くん  
本香 今更香一五 白くん  
枚葉 今更香一五 白くん  
手星 白くん 今更香一五  
くつり 今更香一五 白くん  
おん 今更香一五 白くん  
仙人 白くん 今更香一五  
源氏 今更香一五 白くん  
白くん 今更香一五  
白くん 今更香一五

○葵の幸

葵の幸 今更香一五 白くん  
葵の幸 今更香一五 白くん  
葵の幸 今更香一五 白くん  
葵の幸 今更香一五 白くん  
葵の幸 今更香一五 白くん  
葵の幸 今更香一五 白くん  
葵の幸 今更香一五 白くん  
葵の幸 今更香一五 白くん



貞徳公

小倉山  
草花  
今更香一五 白くん  
心  
今更香一五 白くん  
津草  
今更香一五 白くん



中納言

見み原  
泉川  
いつて  
今更香一五 白くん





○ 双六 一車

双六の原は三浦の國にありて  
まう言ふ楊梅の實の油を  
赤く染むるの事同様の事  
これに金や朱を中へて  
源氏物語にもあるに  
いふにやいふに  
ておののには



源氏物語

山所

み

人

あ

おきぬと



三味線の事

三味線をうたふは  
えんげい  
えんげい  
文書の  
よりの  
こゝろ



九河の行

お

お

お

お

お

お









あつこの天の神様...  
 神様の御心を...  
 申す事...  
 の御心を...  
 申す事...  
 の御心を...  
 申す事...  
 の御心を...  
 申す事...

春道列樹  
 山河の  
 風は  
 吹く  
 春の  
 風は  
 吹く  
 春の  
 風は  
 吹く



の...  
 の...  
 の...  
 の...

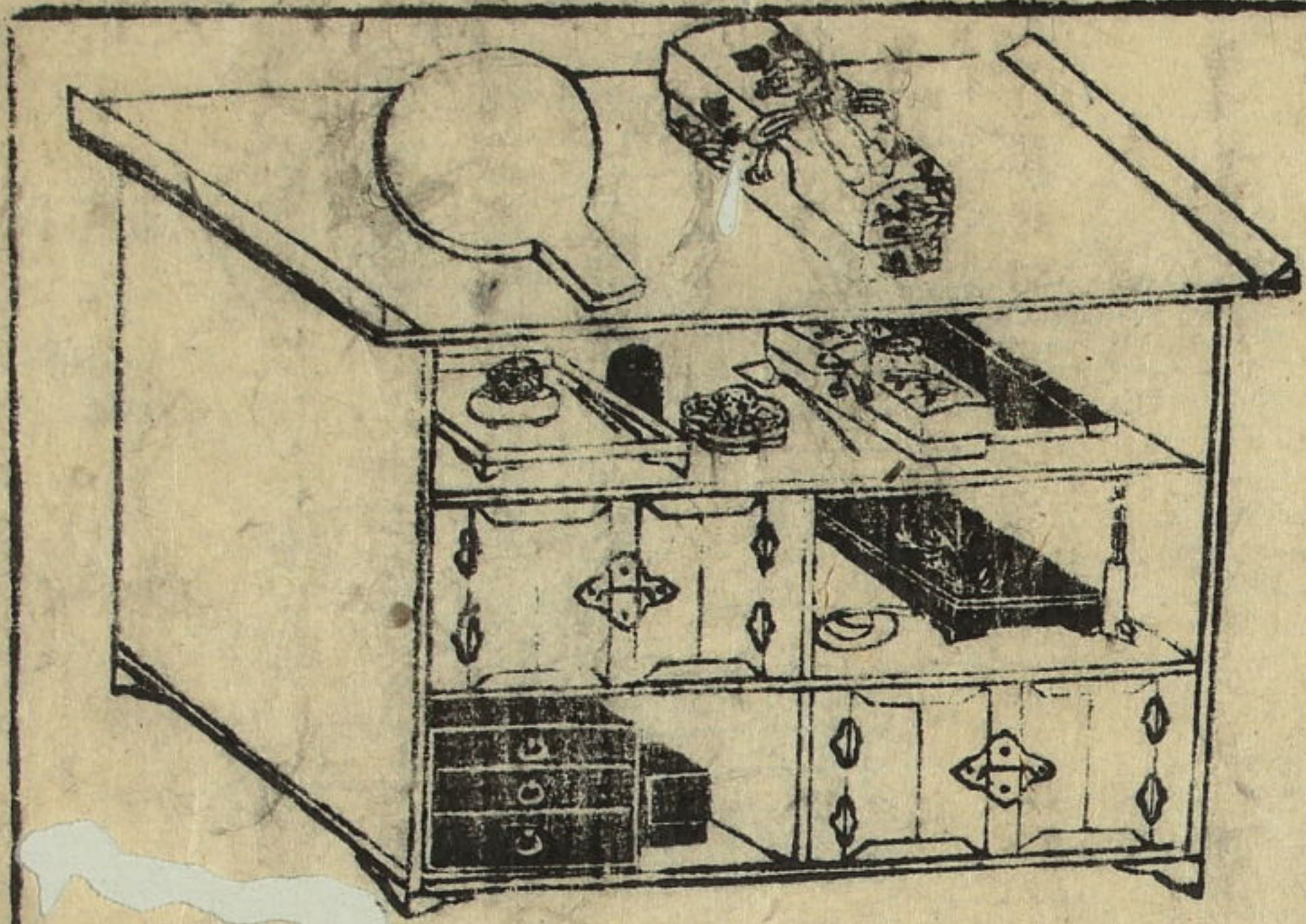
神像遺子  
 大張子  
 龍



紀女則  
 久さ法  
 春の  
 風は  
 吹く  
 春の  
 風は  
 吹く







浄厨子之圖

浄厨子棚飾挿  
 浄厨子の後と腹に  
 入のたふやせ  
 二階入とて  
 浄厨子の後と腹に  
 入のたふやせ  
 二階入とて  
 浄厨子の後と腹に  
 入のたふやせ  
 二階入とて

藤原真風

誰をも  
 知る人  
 高松の  
 松も  
 友なるか  
 よ



紀貫之

人を知る  
 花も  
 事やむいなる



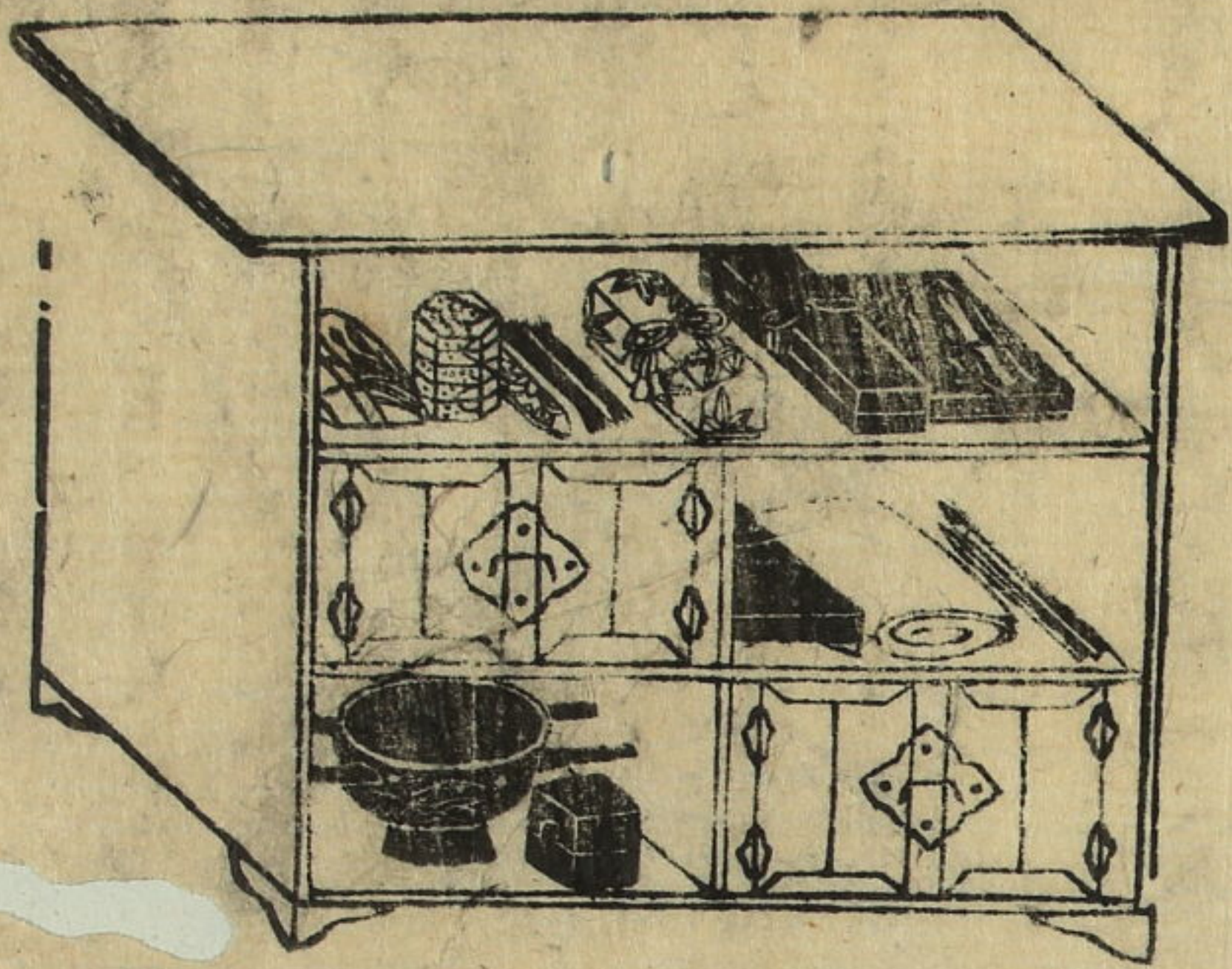


黒棚之結構

黒いふのさうしうのしんげ  
 せんさくの中にとりか  
 ぶふ文の甲辰のしんげ  
 之類のしんげのしんげ  
 しんげの中にとりか  
 之類のしんげのしんげ  
 をしんげ

寸法

さうしうのしんげのしんげ  
 せんさくの中にとりか  
 ぶふ文の甲辰のしんげ  
 之類のしんげのしんげ  
 しんげの中にとりか  
 之類のしんげのしんげ  
 をしんげ



黒棚之圖

清原深養父

夏濃夜

まよき宵

明ゆるそ

雲れいづよ

月屋の鏡



又夜胡康

去る夜

風の

穂乃

ねき

玉を







○ 産後身持心  
 小児胎教は、懐胎の間の身  
 を中身の調を成すの心より、  
 産後の行は、之を以て外味を念せし  
 切用なり。これに食料と床中  
 の心、これに胎小児を成すを  
 取に、産後と云ふは、小児を成  
 せしむる心へ、此の心は、胎の心  
 子の心、此の胎心をよく守り給  
 へ。故に、たまに人あり、ゆり  
 ぐらまの心、胎心をよく守り給  
 へ。産後小児は、胎心をよく守り給  
 へ。また、天地の心と云ふは、産後と云  
 の心、産後と云ふは、産後と云  
 へ。

春議等  
 海らふの  
 療の  
 ちの  
 人れ



忘る  
 思  
 誓  
 人の命  
 人













○ 産後...  
 産後...  
 産後...

○ 産後...  
 産後...  
 産後...

○ 産後...  
 産後...  
 産後...

中納言おと

あふ年の

中

人を

うき



徳公

あ

い

人

あ

あ

あ



徳公











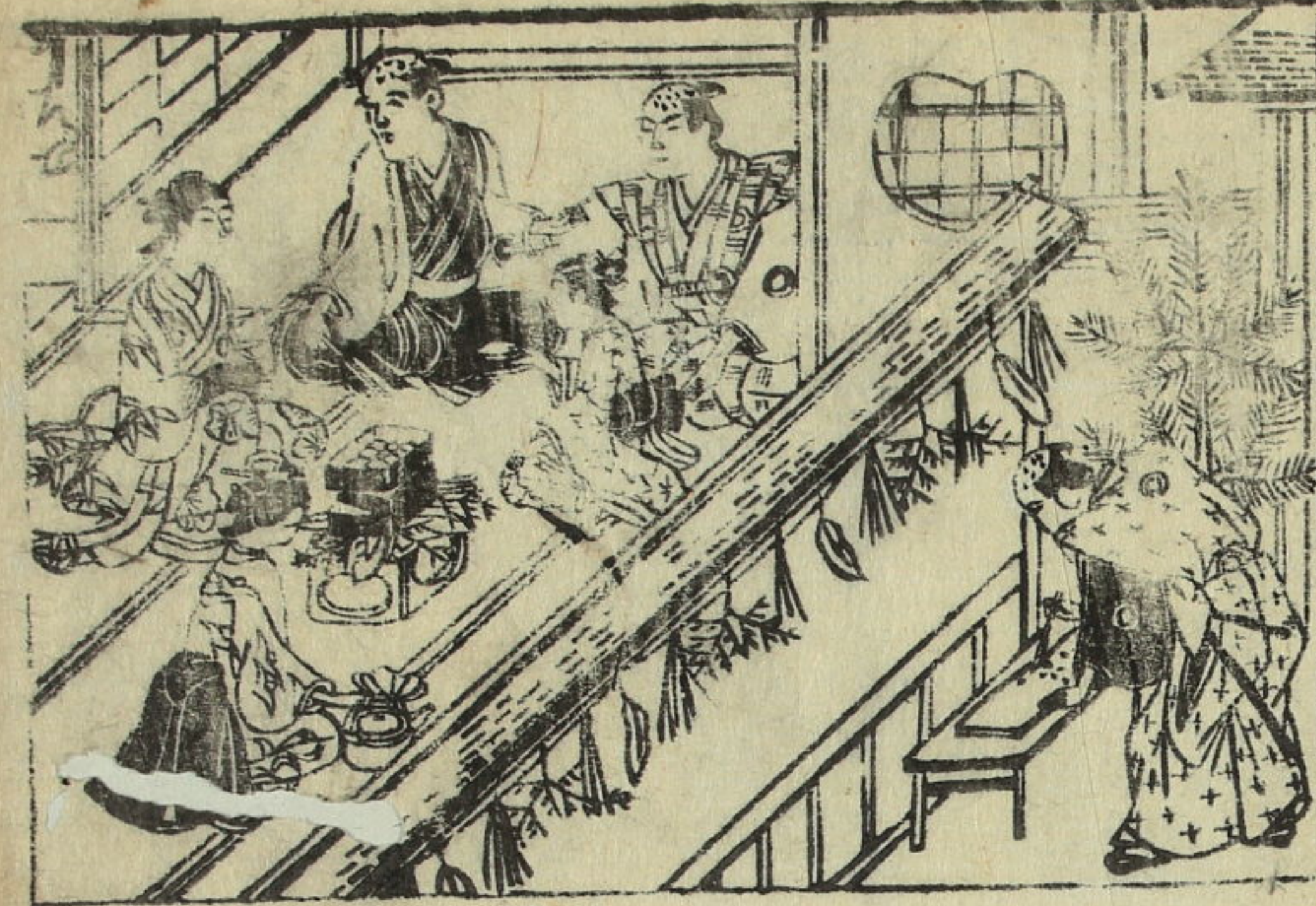
○年中祝ひ日なり

正月

月のかげの山のかげのふかき雪の  
ふりしこのあけのこころは  
雨ふりどやふかき雪の  
うきやうきふりたる雪の  
みと年中のねをけし  
10月入るこころのこころ  
佳慶のりて四やくも  
とくふかき雪のふり  
事ごとくながりたる  
老人ふりし雪の

白木 檜 杉 松 柏 萩 橘 桜 梅 桃 梨 栗 柿 栗 柿 栗 柿  
萩 橘 桜 梅 桃 梨 栗 柿 栗 柿 栗 柿

高き鳥居ニか小庭の  
高き鳥居ニか小庭の  
高き鳥居ニか小庭の



藤原義存

天の

命

命

まぐ

おの



藤原實方

おの

まぐ

命

天の



おの  
まぐ  
命  
天の



















































○かみ文字の事  
 唐土小倉頼とらひ一會  
 のりねをさそ飯りかきと  
 されいものわいり行りま  
 くりりいさか文庫りり  
 をいりい弘法文庫頼命の  
 信とこれをいりはかこり

いりはにほへこ  
 ちりねろを  
 わかよたれり  
 つねならひ  
 うぬのたぐやま  
 けふこぬて  
 わここいあみし  
 あひしせす

は四十七文字の横中も  
 よい望みもよえん田口  
 くうの也く更女いりり  
 事いりりいりりいり  
 をりりりりりりりり  
 ことりりり  
 上くいい下くい  
 上くわ下くわ  
 上くた下くた  
 上くく下くく  
 上くね下くね  
 上くひ下くひ  
 上くま下くま  
 上くり下くり

はまの  
 田の  
 漕の



崇徳院



あふりりりりりりりり









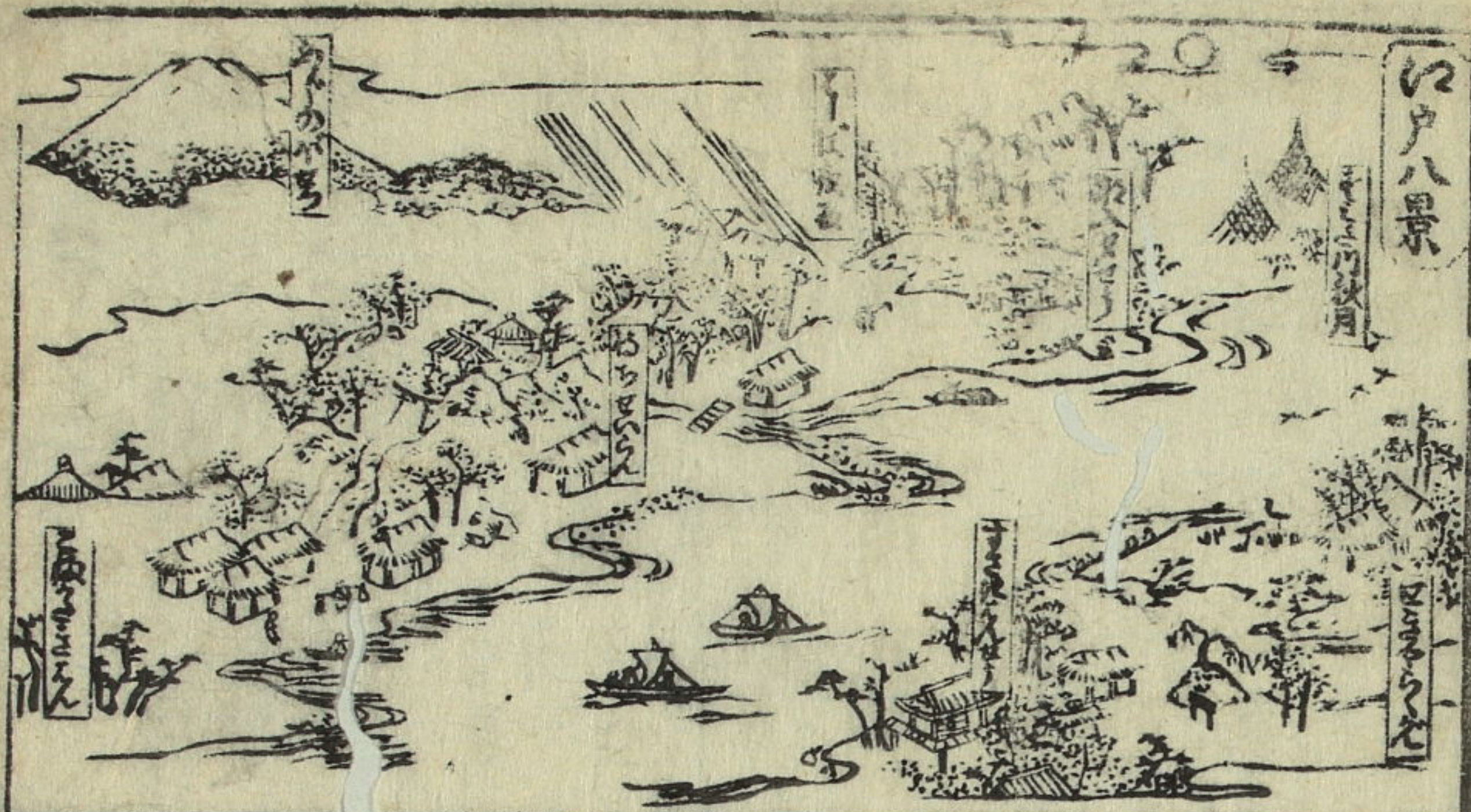












性水	性令	性出	性火	性木
琴	本	長	花	包
歌	布	若	鳥	類
尺	辰	所	益	品
袴	富	竹	猶	年
袖	を	津	兼	連
作	幸	六	余	居

しのぶの  
 雲の  
 ぼんね  
 換の  
 あさの  
 れ夕暮



月  
 物  
 の  
 海  
 の





十干十二支

己 つひ	甲 つひ	子 つひ	丑 つひ	寅 つひ	卯 つひ	辰 つひ	巳 つひ
庚 つひ	乙 つひ	寅 つひ	卯 つひ	辰 つひ	巳 つひ	午 つひ	未 つひ
辛 つひ	丙 つひ	辰 つひ	巳 つひ	午 つひ	未 つひ	申 つひ	酉 つひ
壬 つひ	丁 つひ	巳 つひ	午 つひ	未 つひ	申 つひ	酉 つひ	戌 つひ
癸 つひ	戊 つひ	午 つひ	未 つひ	申 つひ	酉 つひ	戌 つひ	亥 つひ

六十圖



鬼の教の秋  
 不九の火の公に去一り  
 七の金ももみあふり

難波江

祿ののり

身とゆ

皇太后の御



式子の内親王

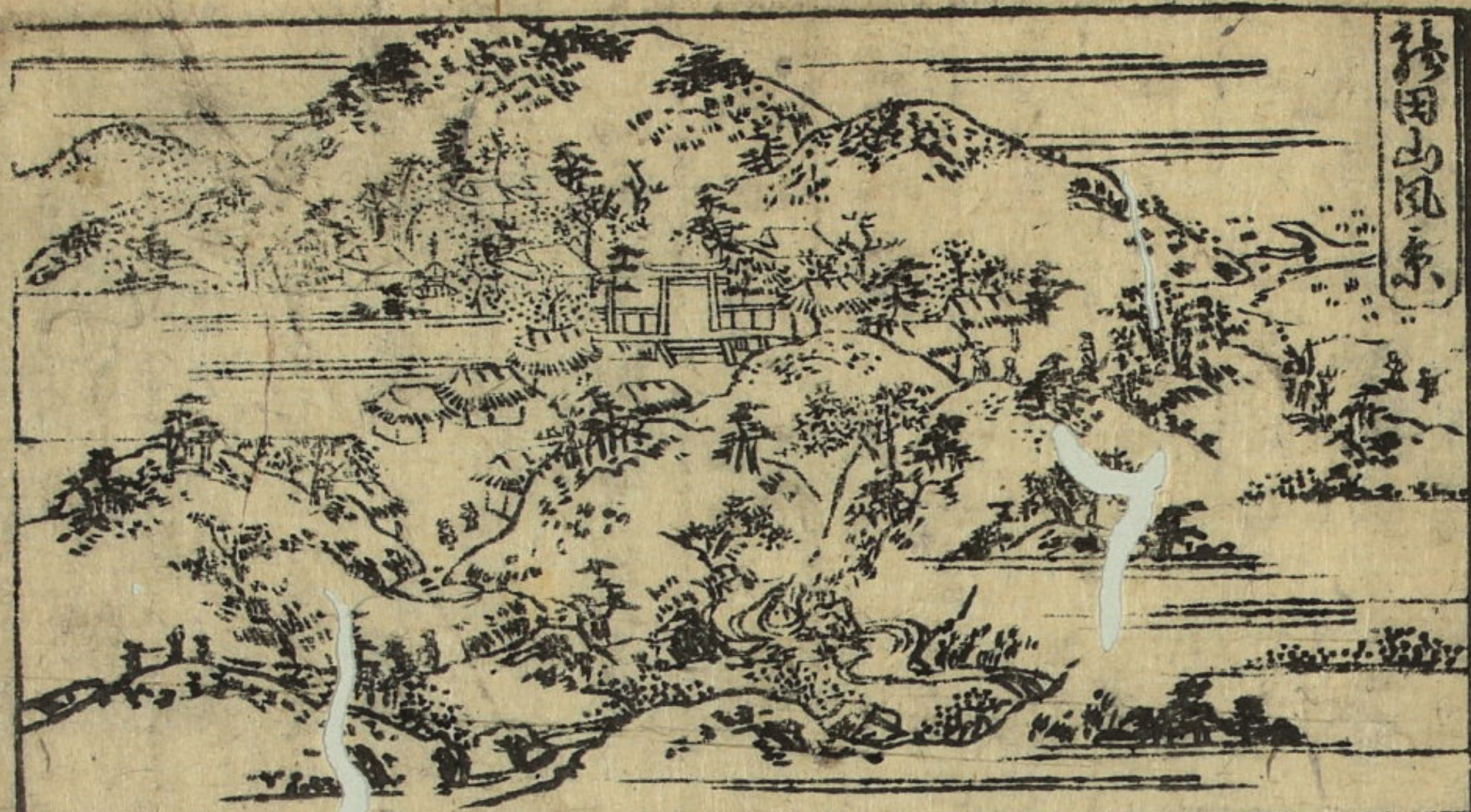
玉の緒よ

あまの

あまの







修田山風景

六十二月	五十一月	四十月	三九月	二八月	一七月	六七月	五六月	四五月	三四月	二三月	一二月	十二月	十一月	十月	九月	八月	七月	六月	五月	四月	三月	二月	一月
------	------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

奇事考の終

不成然自之事

後京極権臣の大政大臣  
 養老の夜  
 奇事考の終



海人の神  
 見習の神  
 殷富の大神





日十下	日十中	日十上
一 二 三 四 五 六 七 八 九 十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十	一 二 三 四 五 六 七 八 九 十



胎小まんのり  
胎小まんのり  
胎小まんのり  
胎小まんのり

衣敷もら後指も  
衣敷もら後指も  
衣敷もら後指も  
衣敷もら後指も

二條院讀以

我神凡

志ほい

仲の石の

人

かくま



鎌倉名名大校

世れ中い

新

新

浦漕

か海のと

あは





わづらひとて... 入るに... 神を...  
わづらひとて... 入るに... 神を...  
わづらひとて... 入るに... 神を...  
わづらひとて... 入るに... 神を...

あはれ... 神... 野の... 推...  
あはれ... 神... 野の... 推...  
あはれ... 神... 野の... 推...  
あはれ... 神... 野の... 推...



あはれ... 神... 野の... 推...  
あはれ... 神... 野の... 推...  
あはれ... 神... 野の... 推...  
あはれ... 神... 野の... 推...













